



愛隣幼稚園

園だより

22. 4月

託されて

今年は園庭の桜が少し長く咲いています。冬が長かったように思います。そういえば駐車場の隅の水仙がいつまでも咲いていました。幼稚園にもいろいろあった冬でした。世界中の人々が心を痛めている戦争は、まだ続いています。それでも季節は廻り、木々には新しい息吹を見つけます。幼稚園も新しい1年の始まり。嬉しい時を共に過ごす仲間を迎えます。どうか世界中の全ての人たちが、等しく、この嬉しい心躍る季節を享受することができますように。その日が1日でも早く訪れますように。

さて、わたくしごとですが、孫というものができて1年半(こちらは次女の子)、すでに2人目(こちらは長女の子)も8ヶ月となりました。時々、園だよりに BABA としての新しい発見やらなんやらを書かせていただくようになりました。昨年は「ははどり」にも書きました。自分の子ではないが血の繋がった子の出現による子育て watching、BABA 業を通しての発見、現代子育て事情・・・なかなか面白い経験をさせてもらっています。自分が渦中にいた時には絶対にできなかった“冷静な観察”はその一つ。保育の知識を結び直す絶好の機会です。大好きな人の表情や声色の変化にどれだけ子どもが敏感であるか、ということも、知ってはいましたが我が孫を観察しながら、その敏感さに驚いています。お母さんの拒否的な態度や否定的な言葉は、1歳のそこそこの子どもにも良く分かっていて、こんなにも子どもは委縮し悲しい表情をするということを目の当たりにしました。きっと私もしていたことですが、その時には気づきもしませんでした。もし、こんなことがずっと続いていたら…、子どもが受けるダメージを実感を伴って想像しました。またこれとは反対に、子どもは大好きな人の笑顔、肯定的な言葉掛けにもよく反応しています。笑いかけられれば笑い返します。それが親をもっと笑顔にします。「いいね～、すごいね～！」と言われれば得意になって繰り返します。安心した雰囲気の中では積極的に探索行動を重ね、できることがドンドン増えていきます。あ～、もう一度子育てができれば、ちーっとはマシな事ができたかもしれない。そんなことばかりを思う BABA です。が、渦中の皆さんには、(たまーに“冷静な観察”もありですが) 親はひたすらに親でいいと思うのです。いいのです！子育ては悪戦苦闘の連続、親も子も間違いだらけで許したり許されたり、それで当たり前くらいに思っていた方がいいのです。親は研究者じゃないし、保育者でもないし。親は親ですから。

私が子育て真っ最中にできなかったもう一つは“ひたすらに可愛い”と思うこと。(駄目な親でした。)これも BABA になって経験させてもらっています。子どもというのは、特に乳幼児期の子どもは、実に可愛い！何をしても可愛い！面白い！会っている時はもちろん、Line に送られてくる写真も動画も疲れた BABA にどれだけ癒しになるか。毎日、この笑顔や泣き顔を見ていたい、あっという間の成長を見逃したくない、と思っているのです。ところが、次女はこの春から職場復帰。孫は保育園に入園することになったわけです。そしてまた、新しい想いが BABA には湧いてきてしまいました。“寂しい”です。保育園に行っちゃうんだ、なんだろうこの気持ちは、もしかして“寂しい？”これも自分の子どもたちの時には経験しなかったことです。さらに“心配”ということも・・・。何が？って、この子の可能性や良さが損なわれたりしないだろうか。託される先生には申し訳ないのですが、心配なのです。保育園の先生、どうかうちの子をよろしくお願いします！と心から思います。私の子ではないのに、愛しい大事な宝物を他人(ひと)の手に委ねることは、こんなに寂しく、とても心配なことなのだ、BABA になって初めて知ることになろうとは、思いもよらないことでした。

孫という存在で、宝を手放す皆さんの気持ちがちーっとはわかる BABA にさせてもらいました。ですから襟を正さなければならぬと、いつも以上に思っています。私たちにとって春は嬉しい心躍る季節でもありますが、大切なひとり一人が園生活の中でも尊重され、仲間の中で育ち会いと共に充実した手応えのある園生活を創り出していくひとり一人になるように、その共同生活者である私たち(保育者)の責任を深く思う春でもあります。